

執筆者紹介

大矢根 淳 本学人間科学部教授、本研究所所長

徐 一睿 本学経済学部教授

鈴木奈穂美 本学経済学部教授

広瀬 裕子 本学人間科学部教授

山縣 宏寿 本学経済学部准教授

〈編集後記〉

月報 700 号記念号をお届けする。

すでに本研究所所長による 700 号を記念する巻頭エッセイにも見られるとおり、100 号分の記録を振り返ると、2010 年代前半から今日までの年月の推移と社会状況の変化に即して研究出版活動が継続されてきたことを確認できる。そして、「社会状況の変化に即して」という点で、本特集号は現在のコロナ・パンデミックにまさに焦点を合わせている。

今次パンデミック下の社会分析と問題の析出および対象化は、社会科学に課されている喫緊の課題であろう。本特集号は、研究所の特別研究助成「ポスト・コロナ時代にかけての経済社会の推移—新自由主義の限界と望ましい経済社会」（代表 徐一睿）の「中間報告」として、上記課題に応えるべく助成グループが継続している研究プロジェクトの成果である。

各論稿それぞれが明らかにしているとおり、パンデミックがもたらした社会的混乱と制度への影響、そして制度を担う人々（すなわち、やがては当事者でもある私たち自身）の葛藤、またそれらがパンデミック前よりもたらされ、あたかも準備されていたかのような状況の表れとして出現していることなど、各論者の専門に即して緻密に実証されている。研究助成課題名には「ポスト」とあるが、同時に私たちは「プレ・コロナ」に目配りをしつつ「コロナ禍」に分析のメスを入れている。時代状況に応じた社会そのものに、文字通りタイムリーに即して研究を継続しまた蓄積していくことが、「終息後」を見通すことがなおできない現在、より一層重要なことと思われる。

(K)

2021 年 10 月 20 日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 大矢根 淳

製作 株式会社グラフィカ・ウエマツ

新宿区下落合 4-21-19 目白 LK ビル 3F 電話 (03)6915-3835
